

## ◇ 資 料 ◇

### 日中比較刑事法セミナー（２）

- I. 中国における薬物犯罪の動向及び刑事政策の展望に関する資料の掲載に当たって 松宮孝明
- II. 何栄功  
中国における薬物犯罪の動向及び刑事政策の展望 張 小寧（訳）

#### I. 中国における薬物犯罪の動向及び 刑事政策の展望に関する資料の掲載に当たって

アヘンに代表される薬物の濫用は、「アヘン戦争」の歴史が語るように、中国、ひいては極東アジア史に大きな影響をもたらした。中華人民共和国が成立した1949年以降は、中国政府がこのような薬物濫用を徹底的に排除する政策を採り、その結果、中国本土は「薬物のない国」とまで称されていた。しかし、改革開放政策と経済のグローバル化は、この状況を変化させた。近年、中国における薬物犯罪は、急速に増加してきている。しかも、その中心は、アヘンやヘロインといった伝統的な麻薬よりも、覚せい剤や合成麻薬といった新しい薬物に移りつつあるようである。

山東大学（威海）法学部副教授の張小寧氏がここに訳出した武漢大学副教授何栄功氏の論文「中国における薬物犯罪の動向及び刑事政策の展望」は、このような中国本土における薬物犯罪の統計に表れた現状と、薬物犯罪に関する刑法及び関連する法律の諸規定、並びに、その背景にある刑事政策・薬物政策を概説したものである。これは、中国における薬物犯罪とこれに対する法及び刑事政策の現状とその展望を知るうえで、非常に有益なものと思われるので、ここにその訳文を掲載する次第である。

薬物犯罪は、非合法的な経済の側面を有する。本資料は、その意味で、経済刑法研究の一環をなすものでもある。もちろん、その掲載に当たっては、著者の何栄功氏のご快諾を得ていることも、併せて記しておく。

立命館大学大学院法務研究科教授

松 宮 孝 明